

# 市民共同おひさまプロジェクトレター

No.21

(編集・発行) NPO法人かわさき市民共同おひさまプロジェクト 2024年2月1日

## 太陽光発電の設置の勧め「屋根は宝物」

— 市民・事業者・行政の連携した活動 —

### 市内の2つのイベントで 「屋根は宝物」のチラシを配布

おひさまプロジェクトでは、「屋根は宝物」のチラシを作成しました。太陽光発電の電気代と電力会社から買う電気代の数値比較をし、身近な屋根で発電をした方が、メリットがあるというものです。このチラシを使って一戸建てに住んでいる方に、太陽光発電設備の設置をよびかける活動をしてきました。

7月9日の川崎市国際交流センターで行われた「インターナショナルフェスティバル」では、地球温暖化にはそれほど興味はないという方もいましたが、電気代高騰の中で太陽光発電設置のメリットがあると同時に、温暖化を止めるためにも重要であるという話をしました。マンションの人が多かったのですが、40人位チラシを渡し、読んでみますという反応がありました。また、9月30日多摩川河川敷で行った「おひさまフェス×星空上映会inかわさき2023」の再エネひろばで、ソーラー電車やソーラークイズに来たこどもの親にチラシを配布し話をしました。中身には興味を示してくれましたが、マンション住まいという方がほとんどでした。



インターナショナルフェスティバル

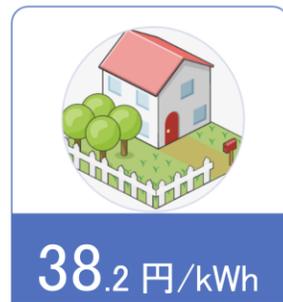
### どっちを選びますか？！

太陽光発電の電気



(30年間変わらない価格)

電力会社の電気



(現在の価格、上昇傾向ですわね)

### 行政、事業者との連携の取り組み

11月18日に「脱炭素アクションみぞのくち広場(まるつとサステナフェスティバル)」をJR武蔵溝ノ口駅南北自由通路で行うイベントがあり、参加申請をしました。事前打ち合わせで、脱炭素戦略推進室と、太陽光発電事業者の(株)イズズさんと、おひさまの3者共同で、温暖化防止の普及啓発活動の取り組みをすることになりました。脱炭素戦略推進室の方は太陽光発電設置に関するシールアンケートを実施されました。(株)イズズさんは、太陽光設置事例紹介パネル展示と、自転車をこいで発電しクリスマスツリーのイルミネーションをつける体験が実施されました。おひさまプロジェクトは、ソーラー電車やソーラーグッズのところに集まってきたこどもたちの親に「屋根は宝物」のチラシを渡し、温暖化防止にもなるという話をし、一戸建ての方に太陽光発電設置を呼びかけました。一戸建てに住んでいるという方は、今までよりも多く、20人位の方がいて検討してみますという返事でした。このブースには人が途絶えることなく多くの方が参加してくれました。

# PPA利用で施設側は負担ゼロ！

## 太陽光の電気が使えて嬉しい 😊

神奈川県内にあるデイサービス施設の事例を紹介します。この施設の事業者は新しく建物を建てる時に太陽光発電を設置したかったが費用が無くてできなかったそうです。再エネ推進のネットワークでつながっていたグリーンピープルズパワー株式会社(以下「GPP」と略)がそれを聞きつけ屋根借りPPAでの設置を提案し、2022年4月に完成しました。GPPが設置費とメンテナンス費を払い、施設側は使用した発電電力の電気代を15年間支払います。発電電力の電気代単価は通常のGPP単価より低いので、施設にとっては電気代低減にもなります。

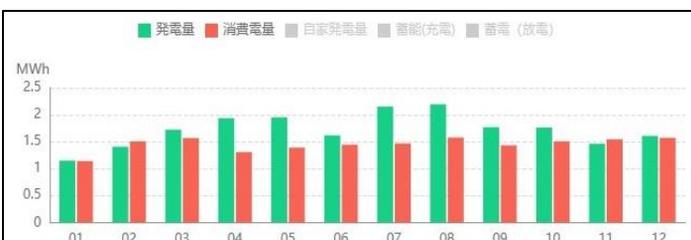
ソーラーパネル15kW、パワーコンディショナー9.9kW、蓄電池10kWh。発電した電気のうち、使わなかった電気は蓄電し、蓄電池が満充電になったら余剰電力はGPPが他のユーザーに供給します。蓄電した電気は夕方放電、施設の電気に使います。蓄電池には電気の一部を残しておいて、停電した時は蓄電池からの電気で、事務所の照明やパソコンを使うことができます。施設の方は

とても喜んでくださっています。職員さんと通所者の方々向けに、設置した設備の説明と地球温暖化防止に貢献する自然エネルギーの講座をさせていただきました。

2023年の結果を見ると、発電の50%が自家消費／50%が余剰、電力消費の58%が発電／42%が買電で、実質的にはほぼ100%太陽光発電でまかなっていることになります。GPP負担の設置費用は290万円(税込)、11年くらいで回収できそうとのことでした



パワコンと蓄電池(10kWh)



2023年の発電量と消費量



2023年8月4日の発電量と消費量



# オフグリッドログハウス訪問記

## 『とても快適、やることいろいろあって楽しい！』

2年前に「川崎市内にオフグリッドログハウスが完成した」とレター第19号で掲載しました。今回、この住宅で暮らしている方に住み心地などをお聞きするために訪問させていただきました。

### オフグリッドハウスとは？

「オフグリッドハウス」の意味は、電力会社と契約しないで、電力としては独立している住宅のこと。訪問した住宅は、屋根上の太陽光発電(7kW)で全ての電気エネルギーを賄っています。発電した電気は家で使い、余った電気は蓄電池(容量16.4kWh)に貯めて、夜間や雨天の時は蓄電池の電気を使います。

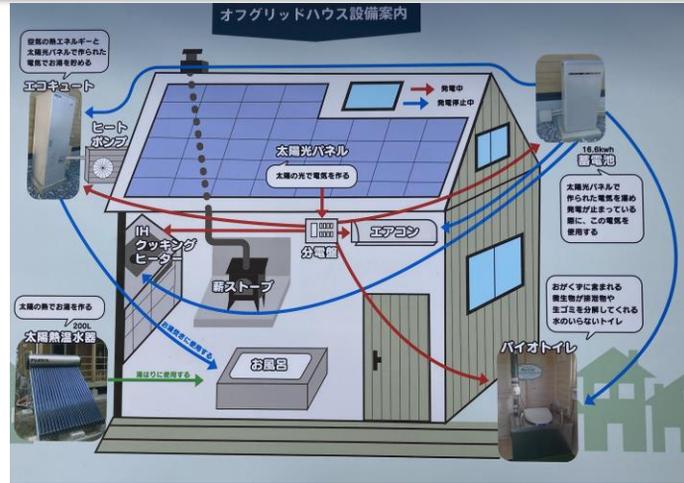
給湯は太陽熱温水器とエコキュートで、ガス会社との契約もありません。冬の暖房用には、薪ストーブもあります。ログハウスは厚さ9cmの無垢の木材で断熱性も良いとのこと。

### 動機は“面白そう！”と思ったから

この家を建てようと思った動機は、メーカーの案内で他のオフグリッドハウスを見学に行き実績があることを知り「電力網につながらないのは、やってみないと分からない。面白そう！」と思ったからとのこと。

### 住んで快適、防災に活用も

住み心地をお聞きしたところ「晴れているときはとても良い、エアコンはつけっぱなしで良い、ただし夕方に蓄電池の残量が50%はあるように気にかけて曇天の時は使用を調整している」そうです。冬は発電量が少なくなるが、暖房は薪ストーブを使えば温かいし、火を見ているのも楽しみとのこと。薪は購入もするが、今まで捨てていた剪定した木材・ご近所の廃材も含めて使えるので良い。ただし、冬に悪天候が続いたときには給湯が使えなくなって2回銭湯に行ったそうです(冬2シーズンで2回!)。家の外にはバイオマストイレもあるので、断水して一般のト



イレが使えなくなった時も使えます。町内会の仲間と「ここを災害時の拠点にしよう」と話し合っているそうです。(井戸もあるそうです)



### EV導入で“蓄電機能UP”の計画も

夏は蓄電池がわりと早く満充電になり、発電した電気を使い切れなそうです。今後は、ライトバン型の電気自動車が発売されたら買って仕事に使う計画だそうです。そのために最初から電気自動車充電設備も作ってあります。

現在でも“ほぼCO2排出ゼロの暮らし”です。今後は、車のエネルギーも自宅の太陽光発電で充電すれば『さらにCO2ゼロ！やることいろいろあって楽しい！』というのが、2年間のオフグリッドログハウスに住んでみての感想でした。

他の方にこういう家を勧められるか？という質問に対しては、オフグリッドの意味が世間では理解されていないので分からないとのこと。しかし、オフグリッドにまですなくても、太陽光発電や蓄電池などを備えた家で脱炭素生活をするのは、楽しく、そしてエコではないでしょうか？



バイオトイレ



エコキュート／蓄電池

# 川崎市国際交流センター1号機 16年目の発電量

2023年9月までは正常に発電しましたが、10月から12月は発電量低下がありました。その期間に施設の改修工事があったようですが、発電に影響があるような作業は無かったとのこと。1月からは正常です。2023年の発電量は6046kWh、設備容量1kW当りの年間発電量は967kWhと低めになりました。

川崎市国際交流センター太陽光発電 年間発電量  
2008年8月～2023年12月の総発電量は99,947 kWh



## ソウルの研究者が1号機を視察

2023年8月28日に韓国ソウル大学日本研究所の研究者チェさんが来所し発電所見学を実施しました。

「市民発電所」の事例研究をしているとのこと。川崎では初めての市民発電所だったこと、設置当時の活動や太陽光発電の普及活動のことなどを話しました。その後、原発ゼロ市民共同かわさき発電所の見学にも行かれました。

## おひさまフェス×星空上映会 in かわさき 2023

9月30日、再生可能エネルギーを使ったお祭りに参加しました。(ニヶ領せせらぎ館裏の河川敷で実施)

午前中雨で、はじめ人出は少なめでしたが、午後には晴れ間も出てソーラークッキングも実施できました。

曇りでも動くソーラー電車は子供たちにいつも人気です。親御さんには「屋根は宝もの」のチラシを配布し説明しました。「再エネ&防災ひろば」として複数の団体が出展し、ソーラーツリーを展示していました。



### 発行人

NPO法人かわさき市民共同おひさまプロジェクト 理事長 山下博子

メール: [info@kawasaki-ohisama.com](mailto:info@kawasaki-ohisama.com)

ホームページ: <http://kawasaki-ohisama.com/>

会費のお願い 個人会員 5,000円 賛助会員 3,000円

ゆうちょ銀行 普通預金  
口座名 かわさきシンキョウドウオヒサマプロジェクト  
記号 10200 番号 97636821

## 川崎フロンターレ麻生グランド 2号機の運転状況

J1川崎フロンターレの練習場である「麻生グランドのクラブハウス(別棟のトイレ屋根)」に設置している太陽熱温水システムは、順調に稼働をしています。2023年の1年間で、43TJのエネルギーを集熱して温水にしました。そのエネルギー量は、プロパンガス使用の一般家庭(関東地方の4人家族、1年分)の約4軒分になります。

2011年に川崎フロンターレ麻生区グラウンドにあるクラブハウスの屋上に設置した太陽熱温水システムは、2016年のクラブハウス建替えに伴い移設されました。出来たお湯は、選手のお風呂やユニフォームの洗濯などに使われています。